

「ゆりの樹幼稚園の教育は 感情を育て、感動を創る」その1

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

平成23年度は脳科学者、茂木健一郎さんの『ひらめき脳』を参考文献に『ゆりの樹幼稚園の教育はきらめき脳を創る』、そして、24年度は脳科学者、茂名軸茂木健一郎さんの『感動する脳』を参考文献に、ゆりの樹幼稚園の教育と重ね合わせて考え、平成25、26年度と2年間をかけて、いつも、ミセスカレッジでお話ししている内容について掲載し、27年度は、斉藤孝先生と山下柚美先生の著書『五感力を育てる』を題材として、「ゆりの樹幼稚園の教育は五感を育てる教育であること」をお伝えしました。

平成28年度は園児の教育とともに親の育ちも考えたいと思い、再度、脳科学の見地から、脳科学者である和田秀樹先生の、『人は感情から老化する』を参考文献にお話を進めていきたいと思ひます。

以下、『人は感情から老化する』の内容目次に沿って進めます。

「少し小さい青の太い文字」で示したところは和田秀樹先生の言葉をそのまま引用させて頂き、実線「—」は文章中略です。

この著書の冒頭にはこの言葉が掲載されています。

「感情の老化」が、すべての老化の元凶。

人間の老化は、「知力」「体力」より、まず「感情」から始まる。
記憶力の衰えを気にする人は多いが、知能・知性は高齢になっても、さほど衰えないことがわかっているし、
正常歩行能力なども思っている以上に、維持される。

それよりも問題なのが、怒り出したらずっと怒っているといった、感情のコントロールや切り替えができなくなったり、自発性や意欲が減退していく「感情の老化」だ。脳の中でも、記憶を司る「海馬」などよりも、人間的な感情を司る「前頭葉」から、真っ先に縮み始めることがわかっている。
これを放つてくと、体も脳も見た目も、すべてが加速度的に老化してしまう。



感情の老化を食い止めることの大切さが書かれていて、今年還暦、60歳を迎える私にはタイムリーな本です。

そして、同時に「人は赤ちゃんで生まれ、赤ちゃんになって死んでいく」といわれています。本当の赤ちゃんの時はおむつを当て、おっぱいを飲み食べさせて育ててもらい、亡くなる前は、襁褓（むつき）を当て、食事を食べさせてもらって、もう一度赤ちゃんに戻って、この世を去るということなのですが、最近では亡くなるまで随分元気で若い方が増えてきました。
どのようにしたら、「あいだみつをさん」がおっしゃる「一生青春」で生きられるかのヒントがこの本にはたくさん詰まっています。

と同時に「感情から老化する」という内容は「人は赤ちゃんで生まれ、赤ちゃんになって死んでいく」逆行する時間、つまり「いかに感情を老化させないことが元気でいるかの秘訣を学ぶこと」は、「生まれた時から感情を育てること、その教育がいかに人生を充実させるか」ということにもつながると私は感じています。



これを読んだときは、茂木健一郎さんの『ひらめき脳』を参考文献に「ゆりの樹幼稚園の教育はきらめき脳を創る」、そして、24年度は脳科学者、茂名軸茂木健一郎さんの『感動する脳』を参考文献に、ゆりの樹幼稚園の教育と重ね合わせて考え、27年度は、斉藤孝先生と山下柚美先生の著書『五感力を育てる』を通してゆりの樹幼稚園の教育を検証した時と同じように、いかにゆりの樹幼稚園の教育が子どもたちにとって大事かを、確信した時と同じ感動がありました。

感動することがいかに脳を活性化させ、成長につながるか、まずは保護者の方の「感情老化度」テストを行ってみましょう。次ページの検査を実施してみてください。

「感情老化」度テスト

※当てはまるところに○を付ける

	YES	どちらとも いえない	NO
●最近、自分から遊びに友達を誘ったことがない			
●性欲、好奇心などがかなり減退している			
●失敗をすると、昔よりもうじうじと引きずる			
●自分の考えと違う意見をなかなか受け入れられない			
●年下にタメ口をきかれると瞬間的にムツとする			
●「この年で始めたって遅い」とよく思う			
●この年なので、お金を使って楽しむより老後に備えて、お金を貯めたいと思う			
●あることが気になったら、しばらく気にし続ける			
●最近、何かで感動して涙を流した記憶がない			
●かっとなって部下や家族にどなることが多い			
●起業など、若い人の話だと思う			
●この半年、一本も映画を見ていない			
●夫婦喧嘩をすると、怒りがなかなか収まらない			
●新刊書やカルチャースクール、資格試験学校、旅行などの広告に興味がない			
●友達の自慢話を聞いていると、昔よりじっと聞いてられない			
●この一カ月、一冊も本を読んでいない			
●最近の若い奴のことはわからない、としばしば思う			
●今日あったできごとが気になって、落ち着かずに眠れないときが多々ある			
●最近、涙もろくなった			

	YES	どちらとも いえない	NO
●昔と比べて、斬新なアイデアが思い浮かばなくなった			
●雑誌『レオン』やグルメ雑誌、ファッション誌なんて自分とは別世界のことと思う			
●一つの気に入った案が思いつくと、なかなか別の考えが浮かばない			
●昔よりイラっとすることが多くなった			
●ここ数年、旅行は自分で計画せず、人の計画に丸乗りするだけだ			
●昔と比べて、いろいろなことに腰が重くなった			
○の数			

※「○の数」にそれぞれ「3」、「2」、「1」をかける

$\begin{matrix} \times 3 & & \times 2 & & \times 1 \\ \parallel & & \parallel & & \parallel \\ \textcircled{1} \square & \textcircled{2} \square & \textcircled{3} \square & & \end{matrix}$

※当てはまるところに○を付ける

	YES	どちらとも いえない	NO
●「ごますり」とわかっていても気持ちいい			
●「あいつは○○だから」という、人の性格などを決めつけたような発言をよくする			
●人にものを尋ねるのが億劫だ			
●仕事で、こうしたほうが良いと思うことがあっても、面倒くさいので提案しない			
●一度嫌い(好き)になった人物のことは、なかなかいい点(悪い点)を認められない			
○の数			

※「○の数」にそれぞれ「2」、「1」、「0」をかける

$\begin{matrix} \times 2 & & \times 1 & & \times 0 \\ \parallel & & \parallel & & \parallel \\ \textcircled{4} \square & \textcircled{5} \square & & & 0 \end{matrix}$

① + ② + ③ + ④ + ⑤

= 歳 = あなたの「感情年齢」

実際の年齢より「感情年齢」が上の人には要注意！

お母様でお仕事をされていない方は家事に置き換えてください。また少し前の著書なので、雑誌名は今やりの雑誌に置き換えてみてくださいね。保護者の方の感情年齢は何歳だったでしょうか？

先日、佐世保市のしょうがい者施設から講演依頼があって、通園されている大人の方とその保護者、施設の先生向けのお話と、長崎市で女性社長の方向けの講演を行ってきました。

そこでの質問のほとんどは、時間内にお話しできなかったミセスカレッジでいつもお話ししている内容であったり、保護者向けに出している冊子に書いていることばかりでしたので、時間の範囲でお伝えしたのですが、一つだけ一見、内容には関係しないように思われる質問がありました。

ある女性社長の方から「高杉先生は一年365日働かれているようにお見受けしますが、いつリフレッシュされているのでしょうか？」という内容でした。

私は、逆質問しました「仕事を楽しんでありますか？」「もちろん、仕事ですから、責任が発生しますし、辛いこと、苦しいこと、悲しくなること、一生懸命行ったことの思いが伝わらなくて、むなしくなること、せつなくなることも山ほどありますが、そのことがあったからこそ、今の私があると感謝して生きていらっしゃいますか？」の二つです。

私の答えは、もういくつも私の冊子をご覧いただいている方、又、ミセスカレッジに参加していらっしゃる保護者の方はすでに私がどう答えるかはご理解のことでしょう。

こう答えました。『私にとって、幼稚園で園児と遊べばそれがリフレッシュ、遠足に行けばそれが旅行、発表会があって、リハーサルで涙すればそれが一番の感動、どんな素晴らしい劇や映画、コンサートより、最も大切な感動と宝物、大学で教鞭をとればエネルギーをもらう、そうとらえることが私のリフレッシュ、若さの秘訣、仕事一つ一つに感動があれば、1年に365日が仕事、同時に365日が喜びの日、そして自分の成長の時ではないでしょうか。』

嫌々する1時間も、楽しんで辛さも受け止めて楽しむ1時間も、同じ人生の1時間、自分で起業された女性社長ならなおさらのこと、失敗して落ち込むより、後ろの失敗から学んで、前を向いて成長して、今この毎日毎日に感動して生きたほうが、人生の徳（損得の得ではなく人徳の徳）ではありませんか？転んで、泣き損では、人生もったいない、同じ人生なら、前を向いてリフレッシュして成長して、苦しみも学びに変えて生きた方が徳のような気がします。もちろんどちらを選ぶかもあなた次第、自己決断ですが・・・』

仕事、家事、子育て、人付き合い含めて、私たちが行う小さな、言葉かけから大きな行動に至るまで通じることではないかと思います。

サミュエル・ウルマン(1840年～1924年)は、ドイツ出身のアメリカの詩人。彼の言葉に下記のようなものがあります。

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ 優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心 安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。
月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしほむ。

苦悶や、狐疑、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ
精気ある魂をも芥に帰せしめてしまふ。年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。日く「驚異えの愛慕心」空にひらめく星晨、その輝きにも似たる事物や思想の対する欽仰、事に處する剛毅な挑戦、小児の如く人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。
大地より、神より、人より、美と喜悅、勇氣と壮大、そして 偉力と靈感を受ける限り人の若さは失われ
ない。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固く
とぎすに至れば、人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる」



40代、そろそろ、人生の初めての老いを感じる時かもしれません。仕事や子育ての疲れも来る時期かもしれません。そんな時ほど、ゆりの樹幼稚園の教育を振り返ってみませんか？

「**自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「**自分が大好きで、自分が信じられる**」教育です。

我が子が生まれてくれたからこそ、親になることが出来、この感動を味わうことが出来、このゆりの樹幼稚園で出会い、人との輪でコミュニケーションが広がり(和)ご縁が繋がっていくのです。

このことを保護者の方も心にとめていただければ、子育てほど、感動し、幸せをくれる最高の時間、今しかない、貴重な感動の時間であることをご理解頂けるでしょう。音楽発表会も感動して頂けたことでしょう。感動のないところには自立はありません・・・感動して親も子どもにも負けない自立の道をたどることで、感情年齢を下げ、若返っていきましょう。では続きは次号で。